

3 風景づくり市民懇談会の提案

(1) 市民懇談会の概要

■市民懇談会の目的

- 「風景づくり市民プラン」の検討
- 風景づくりシンポジウムの開催とプランの公開
- 笛吹市への市民プランの提出
- 策定委員会への市民プランの提示
- 「笛吹市景観計画」へ成果の反映

■市民懇談会の進め方

- 平成22年5月～平成23年1月計7回開催（シンポジウム含む）
- ワークショップ手法による協議
※各回ごとの協議のまとめ
- 風景づくりフィールドワークの実施
- 「市民懇談会かわら版」の発行

■市民懇談会の経過

第1回 平成22年5月24日（月）午後7時～9時
テーマ「お気に入りの風景！風景づくりで大切なこと」
 ●市民懇談会発足ー「景観計画」とは
 ●自己紹介とワークショップ体験

第2回 平成22年6月25日（金）午後7時～9時
テーマ「景観特性を再発見し風景づくりの課題を共有しよう！」
 ●景観特性の整理（「良いところ」・「問題なところ」）
 ●景観特性・情報マップづくり

第3回 平成22年9月18日（土）午前9時～午後3時
テーマ「課題の再確認、提案づくりの方向性を検討しよう！」
 ●風景づくりフィールドワークの実施
 ●風景づくりの課題整理と提案づくりの方向性の協議

第4回 平成22年10月22日（金）午後7時～9時
テーマ「風景づくりプランを提案しよう！」
 ●重点テーマに沿った風景づくりの具体的なアイデア・提案協議

第5回 平成22年12月14日（火）午後7時～9時30分
テーマ「市民懇談会の提案をまとめよう！」
 ●チーム別提案まとめに向けた協議と全体意見交換

第6回 平成23年1月12日（水）午後7時～9時
「シンポジウム準備会」
 ●市民プランの確認、シンポジウム準備

平成23年1月22日（土）午後1時30分～4時
風景づくりシンポジウム開催

■市民懇談会名簿 （順不同、敬称略）

地区	氏名
石和	稀代 康正
	萩原 幸人
	大竹 茂
	川合 久男
	竜沢 美紀
御坂	佐野 修三
	小林 晃子
	大嶋 和由
	水上 兼一
一宮	井上 一巳
	小宮山 克彦
	樋口 公忠
	丸山 嶺男
八代	土屋 寿男
	宮川 二三子
	山本 紀和子
	長坂 里恵子
境川	竜沢 正敏
	名取 洋平
	宮川 公德
春日居	田中 巧
	雨宮 要
	根津 節
芦川	北川 洋
	大森 良祐
	野田 薫



(2) 風景づくり市民プランの概要

① プラン提案にあたって（趣意文）

趣 意 文

笛吹市長 荻野 正直 殿

「笛吹市風景づくり市民懇談会」は、市の呼びかけにより、平成 22 年 5 月に発足し、これまで 6 回のワークショップを重ね、郷土の美しい風景づくりに向けた話し合いを進めてきました。

この提案書は、その成果をまとめたものです。

笛吹市は、「自然、眺望、果樹、歴史・文化、温泉郷」などの特色ある景観があいまった、「桃源郷」と呼ばれる美しい風景をもつ私たちのふるさとです。

この豊かな風土と、暮らしとともに培われてきたかけがえのない美しい風景を、未来の子どもたちに継承していくことは、今を生きる私たちの大きな責務であると考えています。

懇談会では、「風景」は地域に住む多くの人の暮らしや文化の現われであり、様々な価値観を持つ人々が、地域の風景を支えているのだということを知りました。

また、風景づくりは、私たち市民の手によって進められるものであり、そのためには、身近な風景から見つめなおし、その現状を良く知り、風景の成り立ちに思いを馳せること、みんなで話し合い、立場を超えて理解を深め、手をとりあい協力しあうことが重要だと思に至りました。

この提案は、風景に誇りを持ってこのまちに暮らしていく、市民の想いを束ねた小さな一歩です。たとえばはじめは小さな一歩でも、多くの皆さんと手をたずさえて、ふるさとを誇る風景づくりの輪が広がることを願い、私たちの提案をまとめました。

今後、「笛吹市景観計画」の策定や「景観条例」の制定などが予定されています。市には、この提案書にある私たちの想いをくみとり、ひとつずつ実現に向けた取り組みを進めること、また、市民の主体的な活動への理解と支援を望みます。そして、私たちもこの風景の中に生きる一員として、ふるさとの美しい風景を失うことのないよう、協働による風景づくりに尽力することを宣言し、提案にあたっての趣意文といたします。

平成 23 年 1 月 22 日

笛吹市風景づくり市民懇談会 メンバー一同



・風景づくり市民プラン表紙



・風景づくり市民懇談会メンバー集合写真（シンポジウムを終えて）

② 風景づくり市民プラン（抜粋）

■ 笛吹市の風景づくりを考える理念と大切な視点

● 風景づくりの考え方・基本理念：

「誰のための風景なのか」
市民がふるさとに誇りを持って心豊かに暮らせる風景づくりと、
おもてなしの心を育む風景づくりが大切です

- 人々の暮らし・営み、地域の文化など目に見える風景の奥にあるものを大切にします
- 地域を知り・住むところを好きになる、そこからおもてなしの風景を育みます
- 笛吹市に住む私たちの意識を高め、多くの人をまきこむ風景づくりを進めます

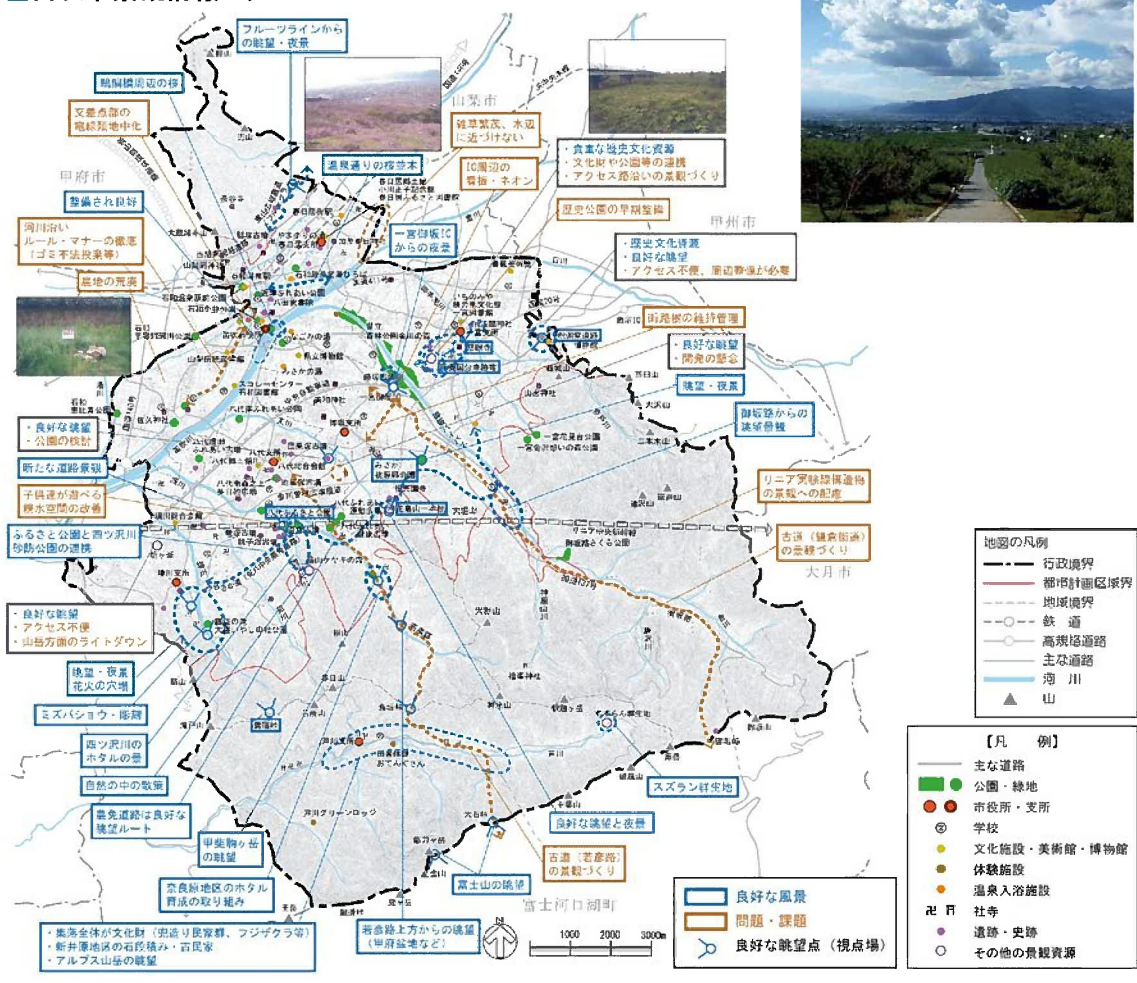
◆ 風景づくりで大切な7つの視点！

市民懇談会は、テーマ別のチームに分かれ、話し合いを進めました。その過程から、提案づくりに共通する「風景づくりで大切な視点」が見えてきました。

- ① 全国に誇る桃源郷の美しい風景を守り・活かすこと
- ② 甲斐国千年の潜在的な歴史・文化資産を活かすこと
- ③ 優れた眺望・夜景を活かすこと
- ④ ふるさとの原風景芦川地区などの人々の暮らしを映す里山や集落景観を活かすこと
- ⑤ 笛吹川などの水辺や豊かな森、貴重な動植物の生息環境を守り、みんなで育むこと
- ⑥ 地域の特性にあった風景づくりから、市全体の風景づくりを進めること
- ⑦ おもてなしの風景を育み、市民や市全体が豊かで元気になること



■ 笛吹市景観情報マップ



重点テーマの提案（チーム別）

●桃源郷を大切に作るチーム

<p>■風景づくりの将来イメージ</p> <p>眺望景観 桃源郷の眺望を守る！ ～個々の魅力が物語る美しい眺望を活かす風景づくり～</p>	<p>■風景づくりの目標</p> <p>●眺望の眺望景観を守り・活かす （眺望の風景、360°のパノラマ、山々の緑、富士山、甲斐盆地など）</p> <p>●良好な眺望点を活かす （眺望ポイントの整備、眺望台、展望台、展望デッキ、展望バスなど）</p> <p>●眺望ルートを活かす・創る</p>	<p>■大切な風景資産を活かすために</p> <p>○眺望の眺望景観を維持 （眺望の風景を活かすための景観規制、眺望ポイントの整備、眺望台の設置など）</p> <p>○眺望ポイントの整備 （眺望ポイントの整備、眺望台の設置、眺望バスなどの整備）</p> <p>○眺望ルートの整備 （眺望ルートの整備、眺望台の設置、眺望バスなどの整備）</p>
<p>■風景づくりの将来イメージ</p> <p>歴史・文化的景観 悠久の歴史から学ぶ！ ～甲斐千年の歴史・文化を活かす風景づくり～</p>	<p>■風景づくりの目標</p> <p>●歴史文化財・歴史資源を活かす （甲斐国分寺、国分尼寺跡、甲斐一宮遺跡、神代、神代寺、寺木善寺跡、大塚寺など）</p> <p>●古道・街道等の潜在的資源を活かす ●地域の文化を活かす ●地名や昔の名前を守る ●行事や祭りを活かす</p>	<p>■大切な風景資産を活かすために</p> <p>○歴史文化財・歴史資源の活用 （歴史文化財・歴史資源の活用、歴史文化財・歴史資源の活用）</p> <p>○古道・街道等の潜在的資源の活用 （古道・街道等の潜在的資源の活用、古道・街道等の潜在的資源の活用）</p> <p>○地域の文化の活用 （地域の文化の活用、地域の文化の活用）</p> <p>○地名や昔の名前の活用 （地名や昔の名前の活用、地名や昔の名前の活用）</p> <p>○行事や祭りの活用 （行事や祭りの活用、行事や祭りの活用）</p>
<p>■風景づくりの将来イメージ</p> <p>自然景観 風土から学ぶ！ ～森や水の豊かな自然環境を守り・活かす風景づくり～</p>	<p>■風景づくりの目標</p> <p>●豊かな森林を維持する （山林、樹山、樹山ガヤクなど）</p> <p>●前川などの清流の維持と親水空間を創る ●貴重な動植物の生態環境を守る</p>	<p>■大切な風景資産を活かすために</p> <p>○豊かな森林の維持 （豊かな森林の維持、豊かな森林の維持）</p> <p>○前川などの清流の維持 （前川などの清流の維持、前川などの清流の維持）</p> <p>○貴重な動植物の生態環境の維持 （貴重な動植物の生態環境の維持、貴重な動植物の生態環境の維持）</p>

●ふるさと風景づくりチーム

<p>■風景づくりの将来イメージ</p> <p>農の景観 ～桃源郷の美しい風景を守り、その魅力をより高める～</p>	<p>■風景づくりの目標</p> <p>●桃源郷の風景を支える農地を守る</p> <p>●農業を元気にする</p> <p>●農の風景を地域のまちづくりに活かす</p>	<p>■大切な風景資産を活かすために</p> <p>○農地の活用 （農地の活用、農地の活用）</p> <p>○農業の振興 （農業の振興、農業の振興）</p> <p>○農の風景の活用 （農の風景の活用、農の風景の活用）</p>
<p>■風景づくりの将来イメージ</p> <p>集落景観 ～地域の暮らしを伝える集落の風景を大切に守り、その魅力をより高める～</p>	<p>■風景づくりの目標</p> <p>●良好な集落地の風景を守り、魅力を高める （丹波地区や奈良地区などの伝統的集落地）</p> <p>●里山を守り・再生する （人と自然の接するところ、多様な生態系）</p> <p>●古道を活かす （古道、古道）</p>	<p>■大切な風景資産を活かすために</p> <p>○良好な集落地の風景の維持 （良好な集落地の風景の維持、良好な集落地の風景の維持）</p> <p>○里山の維持 （里山の維持、里山の維持）</p> <p>○古道の活用 （古道の活用、古道の活用）</p>
<p>■風景づくりの将来イメージ</p> <p>まちの景観 ～「笛吹らしさ」と「おもてなし」を感じさせるまち（市街地）の風景づくり～</p>	<p>■風景づくりの目標</p> <p>●笛吹らしさを活かしたまちづくり （歴史・温泉・文化財・眺望など）</p> <p>●おもてなしを感じさせる風景づくり</p> <p>●地域らしさを生かしたまちづくり</p>	<p>■大切な風景資産を活かすために</p> <p>○笛吹らしさの活用 （笛吹らしさの活用、笛吹らしさの活用）</p> <p>○おもてなしの活用 （おもてなしの活用、おもてなしの活用）</p> <p>○地域らしさの活用 （地域らしさの活用、地域らしさの活用）</p>

■風景づくりの実現に向けて

■提案を実現するための役割分担

●市民の役割

- 自分が自分たちで風景を守る・創るという意識改革を進める
- 風景・景観について主体的に話し合う場を創る
- 「景観」をキーワードとした多様な活動の連携（発表の場など）

●行政の役割

- 市民活動への支援を進める（助成、提・援・協働づくりなど）
- 「景観・温泉・歴史を活かすまちづくり」の市の施策の推進
- 関連施策、関係団体との連携・調整による景観づくりの推進
- 屋外広告物・看板等のルールづくり
- 一斉看板設置費用の1割を風景づくりへ公的に有効活用するなど
- 景観維持地を守る施策を打ち出す（景観地内での景観づくりへの助成、「景観基金」づくりなど）

■先導的な取り組み

◆桃源郷の風景学ぶプロジェクト!!

■風景づくりの重要なステップ!!

STEP1 地域を知る！好きになること！
～住む場所が好きになるために風景や文化を知ること～

STEP2 楽しく学びあい、語り合う地域の風景学を進める！
～やさしさと愛着な風景づくりの理念を共有する～

STEP3 風景のPR！おもてなしの心を育む！
～語り合う、多くの入るまきまお誘い活動を進める～

■今始める！大切にしていくこと

①郷土の風景や文化を知る・学ぶこと

- 大人と子どもの風景学を進める（郷土学習会・講座）
- 地域を知る学校教育を進める（積極的に教材やテーマとした授業、作文集づくりなど～郷土の誇りにつながる）
- 楽しく風景を学ぶ場の手づくり、風景学を創る
- まち歩き、風景のウォッチャー、スタンプラリーの実施

②一人からみんなへ、多くの人をまきこむこと

- 風景について地域で話しあう場を創る（懇話会、協議会など）
- 風景づくりに関わる様々な地域活動を結ぶ場を創る
- 風景学を深め、広める人の育成
- 風景のPR（観光）を地域へ還元させるしくみを創る

③何はなくてもPRの工夫と充実！

- ふるさと基金の活用を促進する（観光・協議会など）
- 地域性の「景観まち歩き」づくり
- 「笛吹市景観」づくり（景観に取られる風景・文化など）

④市民等・行政協働による始めの大切にしていくこと

- 継続した話し合いの場・場を創る
- 景観基金の活用を促進する
- 大いなるものに知識と志を磨き出すこと

■風景づくりの実現に向けて

■提案を実現するための役割分担

■誰のための風景なのかを考えてみよう

- 人によって異なる風景の価値、自分が大切にしたいものなのか
- 自分たちが大切にしたい風景をどう創っていくのか
- 観光や景観づくりによって生じていないか長続きしない

■市民の意識を高めていくことが大切

- 景観学習の促進
- 市民活動の促進
- まち歩き、風景のウォッチャー、スタンプラリーの実施
- 「あいつ・あいつ・あいつ」から始める
- 「あいつ・あいつ・あいつ」から始める
- 景観の活用（観光）を地域へ還元させる
- 景観の活用（観光）を地域へ還元させる
- 景観の活用（観光）を地域へ還元させる

■地域にふさわしいルール（申し合わせ）を考えよう

- 日本の伝統的な景観を取り戻す取り組み
- 景観の維持、景観・外装の改善（景観材の活用）
- 外装の改善（景観・外装の改善）
- 景観の維持、景観・外装の改善
- 景観の維持、景観・外装の改善

■市民・住民活動を支える仕組みを創ろう

- 話し合いの場づくり
- 各団体の協働による景観の維持
- 市民活動の促進
- 景観の活用（観光）を地域へ還元させる
- 景観の活用（観光）を地域へ還元させる

■先導的な取り組み

◆笛吹市・桃源郷ワットバスプロジェクト

■考えよう

- 住民参加による地域の魅力的な景観資源を結ぶ、歩いて楽しむワットバス（ワットバス）づくり

■進めよう

- 地域単位で、魅力的な景観資源を盛り出す
- 景観（ワットバス）のルートを考える
- 景観資源や地域の魅力を高める
- 景観（ワットバス）の魅力をPRする

■ 笛吹市の風景づくりの実現に向けて

風景づくりは、私たち市民をはじめとして、事業者、学識経験者、都市・土木・建築の専門家、行政など、多くの人の協力があることで実現できるものだと考えます。また、市民懇談会を通して、私たち大人のみではなく、次世代を担う子どもたちの協力も不可欠であり、そのために「身近な風景を学ぼう」姿勢がとても重要だと考えました。

個人の活動や取り組みには限界があります。小さな風景づくりに関わる芽が、大きな動きとなって市全体へ波及していくには、それなりの時間や経済的な負担も要するであろうと予想します。

しかしながら、私たちは、小さな芽をつむことのないよう、少しずつでも活動を継続し、多くの人と感動を共有することのできるふるさとの風景を、後世につないでいきたいと願っています。

そのために、風景づくりの大切な取り組みとして、次のような協働体制による行動指針を提案します。

■ 私たち市民がはじめること・・・

- ①ふるさとの風景を再認識する「風景を視る眼」を養い、身近なところから「風景を学ぶ」気持ちを持ちます
- ②風景の価値観を共有するための「意識改革」と「風景づくりへの関心」を高めていきます
- ③個人の負担や誰かが何とかするのではなく、自らが「できることから動き」ます
- ④多くの人と手を携え「草の根的な活動の輪」を広げ、風景づくりを主体的に「話し合う場」を創ります
- ⑤桃源郷の美しい風景と、この風景を何とかしたいとする想い、この「感動」を分かち合い、ふるさとの「誇り」として多くの人に伝える、「おもてなしの心」を育てていきます

■ 行政が進めること・・・

- ①行政の「やる気」をみせること、「体制づくり」や「人づくり」に取り組むこと
- ②市民の想いや活動に応える「支援」を充実すること
- ③風景づくりの実効性を高める一定の決まりやルールなど「仕組みづくり」に取り組むこと
- ④“風景は暮らしの基盤”であることを再認識し、市の財産である「桃源郷を守る施策」に取り組むこと
- ⑤「効果的な実行力」と、長期的な視点での「評価・検証」の仕組みを創ること

笛吹市の風景づくりを牽引し先導する取り組みとして、市民懇談会は次の2つのプロジェクトを提案します。

■ 桃源郷の風景学プロジェクト

■ 笛吹市・桃源郷フットパスプロジェクト

ここから、一緒に進めませんか！

■ 景観フィールドワーク



(3) 笛吹市風景づくりシンポジウムの概要

※「風景づくり市民懇談会かわら版号外」を要約



笛吹市景観計画 風景づくり市民懇談会 風景づくり市民プランの提案

笛吹市風景づくりシンポジウム



新春の雪晴れの青空があざやかな1月、いちのみや桃の里ふれあい文化館多目的ホールにおいて「笛吹市風景づくりシンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムは、笛吹市景観計画の策定にあたって、市民提案を市へ提言する風景づくり市民懇談会の締めくくりとして開催したものです。

風景づくり市民懇談会は平成 22 年5月から平成 23 年1月まで、笛吹市の風景づくり市民プランをまとめるため、延べ6回にわたるワークショップを積み重ね、ようやくこの発表の場へこぎつけました。

このかわら版号外は、これまでのワークショップ概要と市民主体のシンポジウムの記録を整理したものです。

笛吹市景観計画

笛吹市 風景づくり シンポジウム

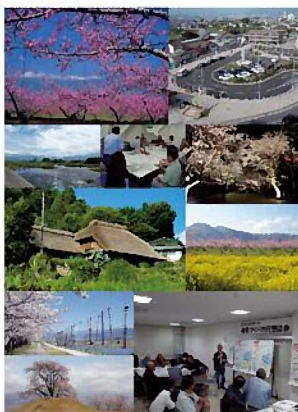
平成23年1月22日(土)
13:30~16:00
いちのみや桃の里ふれあい文化館
多目的ホール
入場無料 どなたでも参加できます

会場案内図



プログラム

13:00	受付
13:30	開会 ● 記念あいさつ
13:40	風景づくり市民プランの提案 「笛吹市景観づくり市民プラン」 ● 市長からの挨拶 ● 市民プランの提出 休憩
14:20	パネルディスカッション 「あそびと笛吹市の楽しい風景づくりをめざして！」 ● パネリスト ・ 佐野 謙 (市民代表) ・ 山崎 隆 (山梨大学学長候補者) ・ 山口 隆典 (県立須賀川高等学校教員) ・ 松本 隆 (県立須賀川高等学校教員) ・ 田中 隆 (県立須賀川高等学校教員)
15:55	● 閉会あいさつ
16:00	閉会



笛吹市では、平成21年度から23年度にかけて、本市の景観づくりの指針となる「景観計画」の策定及び「景観条例」の制定をめざし検討を進めているところです。

景観計画の策定にあたっては、市民の方々の意見を優先的に反映するため「景観づくり市民懇談会」を組織し、市民の立場から知事やアイデアを出し合い、熱い議論が交わってまいりました。

その成果として作成した「笛吹市景観づくり市民プラン」ができあがりました。本シンポジウムは、市民プランを公開の場で発表するとともに、笛吹市の景観づくりについてみんなで語り合う、市民と市職が協働で行う初めてのシンポジウムです。

多くのおみなさんご来場をお待ちしています。

主催：笛吹市／笛吹市景観計画風景づくり市民懇談会
協賛：県民会館、笛吹市建設まちづくり推進課 TEL:055-261-3154

日時：平成 23 年 1 月 22 日 (土)
午後 1 時 30 分～4 時
場所：いちのみや桃の里ふれあい文化館
多目的ホール

風景づくりシンポジウムのめざすところ!

- 市民懇談会の成果を広く公開の場で発表し、多くの市民との意見交換など協議を深めます
- 風景づくり市民プランを市へ提言し、策定委員会および計画策定への反映を図ります
- 笛吹市景観計画や、市民発意の主体的な風景づくりへの取り組みのPR、ともに協力しあうための意識高揚をめざします



・いちのみや桃の里ふれあい文化館

◆風景づくりシンポジウム開催

●開 場

市民シンポジウム当日は、新年も改まった冬晴れの日となりました。冬の陽ざしの暖かな会場は約 150 名（委員、来賓等を含む）を超える来場者となりました。

風景づくりシンポジウムは、笛吹市と風景づくり市民懇談会が主催です。

受付は、ふれあい文化館多目的ホール出入り口部に設けられ、懇談会メンバーと市担当者などにより、来場者名簿への記載をお願いしました。最後に感想などを記入していただく「一言アンケート」も資料と併せて受付で配布しました。

開催時間が近づくにつれ来場者は増え、通路脇には、これまでのワークショップ成果やニュースなどを張り出しました。早めに来場し、資料や掲示物を眺めている皆さんも見受けられました。



・会場受付



・ワークショップ成果の貼りだしボード

●開会のことば・あいさつ



・司会進行・開会宣言

午後 1 時 30 分開会。司会進行である市民懇談会の竜沢美紀さん・斉藤史浩さん（山梨大学生）の開会宣言から始まりました。

演壇は、主催者として市民懇談会の宮川二三子さんによるあいさつから始まり、次に、荻野正直笛吹市長のあいさつ、また、来賓として山梨大学工学部准教授大山勲氏、山梨県県土整備部美しい県土づくり推進室長山口雅典氏の紹介を行いました。



・市民懇談会開会あいさつ



・市長あいさつ

第 1 部 笛吹市風景づくり市民プランの提案

●笛吹市景観計画の概要・市民懇談会ワークショップの概要

第 1 部「笛吹市風景づくり市民プランの提案」の始まりです。

はじめに、「笛吹市景観計画」の概要について、建設部まちづくり整備課山本公一さんにより、策定の目的や目標年次、策定体制やスケジュールなどの説明が行われました。

次に、市民懇談会アドバイザー堀内洋さんにより「風景づくり市民懇談会ワークショップの概要」として、これまでのワークショップの経過や各回成果などの説明が行われました。堀内さんは、ふるさと風景づくりチームのアドバイザーでもあります。



・事務局説明

●風景づくり市民プランの発表

■市民プランの提案にあたって

いよいよ風景づくり市民プランの発表です。発表は、演壇前面の大きなスクリーンに提案の抜粋を投影し、進めました。

はじめに、「市民プランの提案にあたって」を大竹茂さんが発表しました。

提案にあたっては、これまで検討を重ねてきた共通の考え方や、理念、風景づくりで大切な視点など、懇談会全員の想いを、ていねいにわかりやすく話して下さいました。

会場来場者は、スクリーンを静かに見つめながら、時折、市民プラン資料に目を落としていました。



・大竹茂さん発表

■「桃源郷を大切に作るチーム」の提案



・田中巧さん・井上一巳さん発表

風景づくり市民懇談会は、話し合いをしやすいよう任意の2つのチームに分かれて提案づくりを進めました。

「桃源郷を大切に作るチーム」は田中巧さんと井上一巳さんが代表しての発表です。当初、樋口公忠さんが発表予定でしたが、急な用事から井上さんが発表代行を務めました。

「なぜ風景づくりが大切か」から始まり、3つの重点テーマと、提案を実現するための役割分担、また、「桃源郷の風景学プロジェクト」の趣旨など、チームにおける協議の想いが伝わる発表でした。

■「ふるさと風景づくりチーム」の提案

続いて、「ふるさと風景づくりチーム」は、大森良祐さんが代表して発表しました。

重点テーマから特に芦川地区の集落の現状や風景を守るための課題をあげ、そこから提案を実現するための取り組みに結びつけるなど、言葉を選び、静かなながらも重みのある、堂々とした発表となりました。



・大森良祐さん発表

■市民提案の実現に向けて



・土屋寿男さん発表

最後に、「笛吹市風景づくり提案の実現に向けて」を、土屋寿男さんが代表して発表しました。

住民と行政の協働体制、先導的な2つのプロジェクトの取り組みなどを、身振り手振りを交え会場に語りかけ、時折笑みもこぼれる想いのこもった発表に、会場は熱心に聞き入っていました。

●風景づくり市民プランの提出

これまでの市民懇談会の協議成果は「風景づくり市民プラン」として、提案書にまとめました。

提出は、市民懇談会を代表して水上兼一さん・小林晃子さんにより行われ、これまでの想いを一言一言、言葉に託し「趣意文」が読み上げられ、荻野市長に提案書を提出しました。

ワークショップでは、小さな発見や想いを語り合うことの大切さや、目に見える風景の背景にある暮らしぶり、地域の奥行きなどを改めて見直し、風景の本質的な考え方にまで踏み込んだ熱い議論が交わされました。

提案書の提出は、これまでの懇談会のプロセスを手渡すような晴れやかな場となりました。



・水上兼一さん、小林晃子さんによる市長への提案書の提出

第2部 ふるさと笛吹市の美しい風景づくりを目指して！ ーパネルディスカッションー



第2部は「ふるさと笛吹市の美しい風景づくりをめざして！」をテーマとしたパネルディスカッションです。市民懇談会代表や各パネリスト、来場者を含めたオープンな形式で意見交換を行う場として位置づけました。進め方は、笛吹市の風景づくりへ向けた展望や、市民懇談会の提案を基調としています。パネリストは次の方々です。

【パネリスト】

※敬称略

- 荻野 正直 (笛吹市長)
- 大山 勲 (山梨大学工学部准教授)
- 山口 雅典 (山梨県県土整備部美しい県土づくり推進室長)
- 市民懇談会代表
 - ・井上 一巳 (桃源郷を大切に作るチーム代表)
 - ・小宮山克彦 (ふるさと風景づくりチーム代表)
- アドバイザー
 - ・松下 英志 (まちづくりコンサルタント)
- ◇コーディネーター
 - ・宮武由里子 (市民懇談会アドバイザー・コンサルタント)

●市民プラン発表・提案への感想

はじめに、各パネリストに、これまでの提案発表への率直な感想を伺いました。(詳細省略)

●風景づくり市民懇談会からの提案

次に、風景づくり市民懇談会代表パネリストにより、特に重視したい提案、会場に伝えたい提案、専門家に伺いたいことなどについて意見をいただきました。(詳細省略)

井上さんから、「懇談会の提案には既に着手しているものもある。国の重要文化財が3つもある都市は珍しく、歴史・文化を活かす風景づくりが大切。「甲斐国千年の都・笛吹市」に沿う景観づくりが必要で、風景づくりはまちづくりである。」また、小宮山さんから、「総合計画笛吹市協奏曲第1番を演ずる舞台は風景づくり。住んで良かったと思えるまちづくりが必要。先人の知恵を借りてみる必要もある。まず地域から、あるものを発展させ、草の根的な活動と一緒に地域を創り上げる。さらに、環境など新しい時代に沿った風景づくりも大切。」などの話がありました。

●風景づくりに向けた展望・実現に向けて

次に、景観計画の視点も踏まえ、本市の景観づくりに向けた展望や、美しい風景づくりの実現に向けた考え等を各パネリストにお話いただきました。(詳細省略)



●ふるさとの風景づくりに向けて ～会場意見交換～

最後に、「ふるさとの風景づくりをみんなで考えよう！」を主旨として会場意見交換を進めました。今後の本市の景観づくりのあり方などの意見・提案があり、活発な意見が交わされました。(詳細省略)



◆風景づくりシンポジウム開催

●閉会のあいさつ

最後に、市民懇談会川合久男さんより、閉会のあいさつが行われました。

これまでの市民懇談会ワークショップにおいて、ともに貴重な時間を過ごし有意義な協議を進めていくことで、このような成果へ結びつけることができました。

シンポジウム開催から、多くの市民の皆さんと風景づくりについて考え、笛吹市全体の景観を見つめ直すことができました。会場にご来場の多くの皆さん、ご参加・ご協力いただき、本当にありがとうございました。



・川合久男さん
あいさつ

●会場一言アンケート

来場者には、感想やご意見等の一言アンケート票を配布し、多くの方々からの励ましやご提案をいただきました。



●市民懇談会の今後に向けて・・・

できることから一歩ずつ、小さな輪を広げていきましょう!

風景づくりシンポジウムは、冬晴れの陽ざしのように、温かみがあり、かつ、凛とした想いが伝わり、市民懇談会の締めくくりにあふさわしいものとなりました。

ここに至る話し合いの経過やパネルディスカッションの意見、会場アンケートなどを見ると、風景づくりへの展望はもちろんですが、提案の真意に見えるもの、多くの熱意を、このような機会の積み重ねから市民・行政の協働体制による風景づくりに結びつけていくこと、それが重要な第一歩であるという想いが伺えます。

景観計画の行く末を見守ることはもちろんですが、市民懇談会が短い期間ながらも培った経験や束ねた想い、また、このような活動の継続が、今後の景観づくりにとって大切であることを共通認識とし、できることから一歩ずつ動き、手をたずさえて小さな輪を広げていきましょう!